

## あなたを導く光

岳北消防本部

大口 和人

皆さん、「避難場所」と聞いて、その区別がつかますか？

私がある地区の自主防災組織の訓練に指導に行った時の事です。「皆さんは今、一時避難場所に避難する訓練をしました。では次に避難する指定避難場所はどこかご存知ですか？」と尋ねると、「よく分からない。」という返事が返ってきました。

一時避難場所は近所の広場や公会堂が多く、一時的に避難する場所です。指定緊急避難場所は、地震や土砂災害等から緊急に避難する場所で、公園や学校などが指定されています。指定避難場所は、数日間滞在することができる場所で、小中学校や体育館等が定められており、指定緊急避難場所を兼ねている場合もあります。従って、一時避難場所、指定緊急避難場所、指定避難場所の順に安全な場所であることとなります。

しかし、この3つの避難場所の種類を正しく理解している住民は少ないのではないのでしょうか。

そこで私は、「避難所別フラッシュライト」の設置を提案します。

このライトは、大型で消費電力の少ないLED発光の物を使用し、遠くからでも灯台のようによく見えるよう、避難場所の建物の最上部などに目立つように設置します。また、色は信号機の色に合わせ、一時避難場所は赤色、指定緊急避難場所は黄色、指定避難場所は青色の3種類とします。

ライトは常に光っている訳ではなく、緊急時に自動又は手動で作動できるようにし、電源は太陽光発電の蓄電式とすることで、停電中でも作動できるようにします。

近年の神城断層地震や熊本地震、昨年末の茨城での地震などは夜間に発生しました。避難者は、周囲が停電し真っ暗な中、非常に不安であり、恐怖でもあったはずです。

そんな中、このライトが避難所で光っていれば、自分の向かう目的地が一目瞭然で分かり、安心して避難できるのではないのでしょうか。

突然被災した避難者は、とにかく一番近い赤・黄・青のいずれかの場所に向かえばよく、赤に行ったら次は黄色か青に向かうことで、更に安全な場所に避難することができるのです。

この光を使った方法はとてもシンプルであるため、もしあなたが旅行中などの見知らぬ土地で被災したとしても、迷うことなく避難所に辿り着けるでしょう。また、年々増加している外国人観光客に対しても、入国の際、事前にルールを周知しておけば十分活用できるはずです。

更に、この光は上空からの視認の良さも特徴です。大災害時には多くのヘリコプターが被災地に向けて出動します。その多くは他県から土地勘のない場所への出動になりますが、光が上空から見えれば、避難所の位置と種類が一目で分かります。実際、私が消防防災ヘリコプターに搭乗している時、昼でも光っている物は上空からよく見えただため、要救助者の位置がはっきりしない時など、下からの光に何度も助けられた経験があります。

そして、光の点灯の間隔や光り方を変え、モールス信号の様な全国共通の意味を持つものにすれば、光によりその避難所では「今何を求めているのか」が視覚で確認することができます。救助を求めている光を発信すれば、上空からすぐに救助に向かうことができるのです。もちろん、地上においても光を見つけるだけで、地元の消防隊や緊急消防援助隊も救助を求めている人がどこにいるのかすぐに分かります。更に、われわれ消防隊だけではなく、自衛隊、警察、医療機関、そして地元自治体なども、同じ光を同じ意味で受け取ることにより、避難者の救援に向かうことができるのです。

この「避難場所別フラッシュライト」の光は、全ての人に大きなメリットをもたらすと思いませんか。

避難者も救助者もこの光に導かれるのです。

「あなたを導く光に」